

行動デザインで解決できる課題を 捉えるためのシカケワークショップの開発

Development of SHIKAKE Workshop to Capture Solvable Issues by Behavioral Design.

飯島 玲生^{1,2}

Leo Iijima¹

¹名古屋大学

¹Nagoya University

²株式会社 NTT データ経営研究所

² NTT DATA INSTITUTE OF MANAGEMENT CONSULTING, Inc.

Abstract: When we adopt SHIKAKE approach on a certain problem, it is important to choose social issues that can be solved by behavioral change as a target. However, it is difficult to identify problems that appropriates to SHIKAKE approach because SHIKAKE's scope is broad and not well organized. Therefore, we developed a new framework of SHIKAKE workshop, in which the participants can find social issues to solve and create SHIKAKE as a solution. In this paper, we introduce the framework and practical examples.

1. はじめに

仕掛学の着眼点で社会課題の解決策を検討する際には、人の行動変化で解決できる課題を選択することが重要である。例えば、健康増進の解決策を考える場合は栄養摂取の食行動や運動習慣を検討対象とし、そのための人の行動をデザインするアプローチをとっている[1]。

これまでに特定課題に対して、仕掛けのアイデアを考えるコンテストやプロトタイピングが行われている[2]。また、特定の社会課題に対するアイデアの発想を支援する方法[3]が考案されている。しかし、仕掛学のアプローチに適した社会課題を特定し、解決策の発想を支援する取組は少ない。

そこで本研究では、仕掛学の観点で解決すべき社

会的課題を見つけ、その解決策として仕掛けを発想するまでのフレームワークを用いたシカケワークショップを開発した。本稿では本ワークショップの構成や実践事例を紹介する。

2. シカケワークショップの構成

シカケワークショップは3つのステップで構成されている(図1)。

- ・ステップ1「仕掛学を知る」では、仕掛けのコンセプト、仕掛けの3要件、仕掛けの原理と実例、を紹介することで、仕掛学を理解する。
- ・ステップ2「課題を捉える」では、身近な困りごとや社会課題から、人の行動変化で解決できる課題を捉える。
- ・ステップ3「仕掛けを考える」では、各自が対象

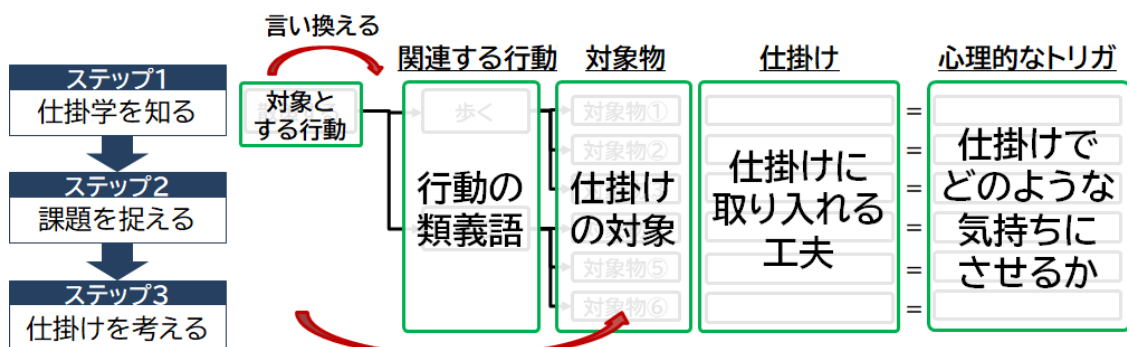


図1 仕掛け発想のフレームワークの全体構造

とした行動を起点に仕掛けを組み込む対象物を多く挙げることによって、仕掛けのアイデアを発想する（[4]を参照した方法）。

次節では実際に実施したシカケワークショップにおける参加者の検討結果について紹介する。

3. シカケワークショップの実施

ワークショップの実施概要は以下の通りである。

- ・日時：2021年10月2日（土）
- ・時間：2時間
- ・場所：愛知県名古屋市内
- ・人数：14人

本ワークショップでは、人の行動変化で解決できる課題を挙げてから仕掛けを発想するフレームワークを使用した。特徴は以下の3点である。

- ・特徴1：仕掛けが対象とする社会課題の領域や実例を参照して、検討する課題を考える。
- ・特徴2：検討する行動に関連した、仕掛けの対象物を挙げて、仕掛けの発想を広げる。
- ・特徴3：仕掛けの先行事例や心理的トリガを参考にして仕掛けを考える。

例えば、「(健康のために) 散歩する」を検討する課題に設定したときは散歩に関連した「靴」、「道路」、「店舗」、「通勤」などを、仕掛けを組み込む対象物として挙げた上で、それぞれの対象物に対する仕掛けのアイデアを発想する形式をとる（図1）。

3-1 ワークショップの検討内容

ワークショップ参加者のうち、本研究に情報提供があった7名の検討結果を整理した（表1）。対象とした課題は20行動挙げられ、参加者はこの中から4つの行動を促す仕掛けを検討した。最初にこの4つの行動に関連する動詞から連想させて、それぞれの行動に結びつく仕掛けの対象物（合計44）を挙げ、

各対象物に対して仕掛けのアイデアを発想した。その結果、4つの行動に対する仕掛けが16アイデア生まれた。

例えば「掃除」をテーマに毎日の掃除を習慣化しなくなる仕掛けが検討されて、「たんすを開けると好きな音楽が流れてつい開閉しなくなる仕掛け」、「クローゼットをあけると素敵な香りがしてつい服をしまいたくなる仕掛け」、「白くて汚れが目立つじゅうたんでつい掃除機をかけたくなくなる仕掛け」が発想された。いずれの仕掛けも「～したくなる」ための心理的なトリガとあわせて発案された。

3-2 受講生の感想

ワークショップ参加者の感想を紹介する。

- ・ワークショップで発想の仕方を学べたことがとても良かった
- ・「つい～したくなる」という基本的心理と行動の密接さを再確認できた。
- ・やや馴染みにくいと思われがちなSDGsも問題解決の糸口がどんどん見えてくる気がした。

4. 考察とまとめ

本稿では、社会課題を捉えて仕掛けのアイデア発想までを行うシカケワークショップの構成と実施例を紹介した。仕掛けの着眼点で取組む課題の対象範囲やニーズを検討する取組や、社会課題を解決する仕掛けの発想を支援する取組は、仕掛けの社会実装の促進に有効である。

参考文献

- [1] 松村真宏, 仕掛け学, 東洋経済新報社, (2016)
- [2] 松村真宏研究室 HP
- [3] 山西康太, 松村真宏: SOHT : 仕掛け発想支援ツール, 第10回仕掛け学研究会, SIG-TBC-010-04, (2021)
- [4] 森山 明宏:シカケ～行動したくなるデザイン, (2016)

表1 シカケワークショップでの仕掛けの検討結果 (n=7)

課題とした行動	取り上げた行動	行動に関連する動詞	仕掛けの対象物	仕掛けアイデア
20 行動	4 行動	24 動詞	44 対象(重複あり)	16 アイデア
運動習慣 食事の栄養摂取 学習習慣 部屋のそうじ ウォーキング 老後資金準備 ヘルスケア 遵守行為 エスカレーター 適量摂食	早めの行動 健康行動選択 通路・階段の通行 運動習慣 社会行動 食行動 会議室の整頓 プロボノ参加 アンケート回答	楽しむ 歩く 買う 見る つくる 静止する しまう つくる 掃除する 買う 片付ける かむ 歩く 調理する 見る 外食する 静止する 栄養をとる 作る 意見を言う 選ぶ 協力する 喜ぶ 投票する	ポスター 音 動画 香り・匂い 音 調理用品 香り・匂い 気力 料理 レシピ キッチン スーパー スーパー 食材 食材 飲食店 健康 口腔 会話 健康 快楽 歯 アナウンス キッチン 踏板 テレビ ポスター 道具 動画 店	散歩 バランス カロリー計算 栄養素 健康食 相手 場 満足 友人 満足感 正義感 箱 紙 ボタン